

Wednesday

若者ページ 夢さほ プラス

道新デジタルの教育コーナー

道新先生

検索



#転職希望者1000万人 #関心度にばらつきも

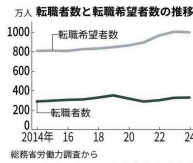
転職関連の広告をネットやテレビ、駅構内でよく目にする。総務省の労働力調査によると全国の転職者数は2022年以降増加し、24年は331万人。転職希望者数も増え続け、24年は前年より減少したものの1000万人だった。図表＝就職情報会社のマイナビ(東京)の転職活動実態調査によると、24年7月～25年6月に転職活動をした20代375人のうち「必ず転職したい」は男性33.9%、女性35.8%と3人に1人以上になる。ただ、関心度にもばらつきがあり、「いい会社が見つければ転職したい」は男性46.7%、女性48.6%＝図表＝、現在の職場で働き続けるか迷っている人も多い。今回は将来のキャリアを考えるヒントを探った。

転職を考える上でのヒントをキャリアコンサルタントの高野聡子さんと清水理恵さんに聞いた。札幌で働く2人は東京の一般財団法人ACCN(オールキャリアコンサルタントネットワーク)北海道支部に所属。高野さんは支部長を務める。20～30代からの相談が多い内容は、清水 将来に関する不安や給与、休みに関する相談です。30代は「専門性を身につけたい」「生活と両立させたい」という相談が多い印象です。高野 特に20代は周囲の話や交流サイト(SNS)の投稿を受け「自分も転職した方がいいのか」と相談に来ます。

具体的イメージ大切

一転職後に後悔しないためには、清水 具体的なイメージを持つことが重要です。1日の流れ、繁忙期、入社後の仕事内容、自分のポジション。面接で聞いて良いです。特に医療や介護の分野

キャリア形成 自分見つめて

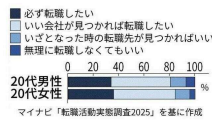


の時、感情的な時です。転職について自問自答し、冷静に考えられる状況でなければいけません。清水 「人に言われて」「他人が成功しているように見えて」という時。ポジティブな理由があった方がいいです。

問いを立て考え整理

一悩んでいる方へのアドバイスは。清水 最初から「転職」を見つけてもいいと思います。1人で思い悩まないでほしい。自己理解や仕事理解をするための厚生労働省のサイトjobtag(ジョブタグ)＝QRコード＝もあります。高野 次の会社に行くにしても、今の会社で学べることを身につけてからの方がいい。自分自身を見つめる作業はずっと付いて回ります。自分で問いを立て考えを整理する力が必要で、そのために外部を頼るのもスキルです。(小坂真希)＝詳細は道新デジタルに掲載

転職活動に対するスタンス



マイナビ「転職活動実態調査2025」を基に作成

家計で考える人生設計

転職も含めて将来の人生設計に「家計」の問題は外せない。ハローワーク札幌などは1月23日、市内で「キャリアを支えるマネープランセミナー」を開き、1級ファイナンシャル・プランニング技能士で千歳市を拠点に活動している阿部のぞみさん(40)が20～60代の約40人を前に講義を行った。インフレ下の「人生100年時代」を見据えて短期、中期、長期に分けて必要な金額や預け先を考える必要性を指摘。その上で、自分の家庭が年間を通じて支出する額を月にならした平均支出額をあらかじめ把握しておく重要性を強調したほか、社会保険の基礎知識も紹介した。セミナーは2021年から始まり年6回開催。ハローワーク札幌、札幌東、札幌北、ハローワークプラザ札幌ではファイナンシャルプランナーによる予約制の個別相談もある。

インフォメーション

■22日から新興企業支援の「SHAKE H」 新興企業が海外の企業・投資家と交流し、事業拡大や連携を図る「SHAKE H(シェイク・エイチ)」＝写真はロゴマーク＝が22～26日、後志管内二子町や札幌市などで開かれる。主催は同市や道などで行う新興企業支援組織のスタートアップ北海道実行委員会。日本語と英語で事業を売り込むピッチ大会や成果発表会などが開かれる。

イベント名は世界を獲る(シェイクする) 革新者を生誕地に戻すシャケに重ねた。初日は二子町と後志管内蘭越町で参加者が交流し、23日は二子町でピッチ大会を開催。24日からは道庁赤レンガ庁舎などで歓迎パーティーや新興企業の成果発表会、起業志望者への支援プログラム報告会などがある。26日はエスコフィールド北海道で、世界中の新興企業と自治体・企業による事業共創の成果発表会を開く。参加無料のイベントもあり、実行委は「道内の新興企業が海外展開し、成長していくきっかけになれば」と参加を呼び掛けている。問い合わせはQRコードから。

取材後記

自分自身と向き合う作業は、ずっと続いていくという話が印象的だった。性格、働き方に対する価値観や対人関係のくせ。転職してもしなくても、自分が選んだ道に納得できるかどうかが大事なところ。他人は私の人生の責任はとれない。「選ばされた」人生より「選んだ」人生の方が楽しそうだ。(小)



次回は 2月18日



就職活動が始まると、学生たちは情報の海に溺れる。「正解」が見えず、不安だけが募る光景を、採用担当として多くの学生と接する中で見てきました。その不安を埋めるための、最近では人工知能(AI)で整えたための、体温のないエントリーシートも急増中。ツールへの依存は未来につながるのか。若手社会人らに就活の本当の姿を直撃しました。まずは広告・金融業界を目指し最終的に広告会社に入ったAさん(2年目)。彼が無意味としたのはマニュアル本の熟

就活のリアル 答えは現場に

読です。「市場の変化は早く、情報はすぐ古くなる。机上の対策より実際の場数を踏んで肌感覚を養う方が実践的でした」 対して推奨するのは先輩社員などとの対話。「大学のキャリアセンターは広く浅い基本の場。その上で実戦で勝つには、先輩からのより深い知識や生の情報が必要でした」。ネットやAIにあるのは表面的な情報だけ。志望する企業の現場に足を運び、本音で議論して得た武器こそが、納得のいく内定を引き寄せたのです。もう一人は来春から行政機関で働くBさん。「付け焼き刃のニュース知識や、

過度なマナーへの固執は無駄でした。作法に気を取られ、肝心の会話がおろそかになってしまった」と振り返ります。逆に良かったのは一対一の対話。「説明会では行き止まりの顔。先輩の行政職員の方と個別に話すことで仕事の厳しい現実も知り、覚悟が決まりました」。一方でマニュアルを全て捨てることに警鐘を鳴らします。「大人との会話に慣れない学生が、何の型も持たずに丸腰で挑むと、会話が成立せず事故を起こすリスクがあります。大切なのは、自分を表現するための最低限の型を身につけた上で、そこから個性を出すことでした」



彼らの声が示すのは、机上の空論よりも足で稼ぐ情報の価値です。行動を変えれば、結果が変わる。誰かの正解をなぞるのではなく、自分の足と頭で勝負する。就職活動は長い人生の通過点にすぎません。演じる作業はやめ、等身大でぶつかること。自分の人生は自分で決めてほしいです。 藤山博史(地域創生の「彩り」代表)